

令和3年度 学校評価

校長 名
大津 裕一

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>新しい時代を創造するための教養を身につけさせ、心身ともに健全で調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。</p> <p>1. 学力を高め、自ら考え正しい判断ができる人(知) 2. 美しい豊かな心を持ち、思いやりがあり、助け合える人(情) 3. 責任を重んじ、実行力のある人(意) 4. 体力を高め、健康で自分を大切にすること(体)</p>	<p>今年度は、次の4点に重点をおき、学校教育目標の達成に向けて教職員全員で取り組む。</p> <p>I 確かな学力を身につける教育の推進 II 心の教育の推進 III 健康・安全教育の推進 IV 開かれた学校づくりの推進</p>	<p>学校経営目標達成のため、次の重点課題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある授業を実施し、生徒一人ひとりが確かな学力を身につけ、それを活用する能力を高める授業の研究に努める。 ・一人ひとりの生徒と教職員との信頼関係を築き、生徒と共に明るく、生き生きとした学校をつくる。 ・すべての生徒が心身ともに健康で、安心して学習でき、安全な教育環境整備を進める。 ・「気づかせ、考えさせ、行動させる」指導の徹底。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<p>確かな学力を身につける教育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的事項の定着 ・生徒の学習意欲の向上 ・評価についての研究 	<p>○新指導要領における3観点からの評価へのつなげ方について研修を行い、教員の共通理解を得ることができた。</p> <p>○GIGAスクール構想により、急速な一人一台の端末配置と高速大容量ネットワークの整備により、多量の混乱があったが、教職員は前向きにクロームブックの活用に向けて取り組んだ。</p> <p>○多くの教員がこれまで行ってきたPC大型TVやデジタル教科書等を用いた授業に加えて、クロームブックを活用し、さらに生徒の興味をひく授業を行った。</p> <p>○ICTを活用した生徒の意欲を高める授業を指し、生田東高校の先生と合同研修会を行い、有意義な情報交換ができた。</p> <p>○今年度も授業時間を極力確保することに努め、自習時間を作らないように時間割の調整を図ることができた。</p> <p>○朝学活の時間に読書とクロームブック活用(GIGA活)の時間を定期的な研修に設けることができた。</p> <p>●生徒の家庭学習の習慣化や授業規律を徹底するための手立ての見直しが必要である。特にクロームブックの活用についてはまだ改善の余地がある。</p> <p>●密にならない程度にグループ活動をするなどして、生徒が自ら考える環境を整えながら主体的・対話的で深い学びを意識した授業の工夫がなされたが、対面式ではない話し合い内容には限界があった。</p> <p>○市の研究推進(英語科)について、全職員が同じテーマで授業を実施し、指導を行うことができた。</p>	<p>・クロームブックを使用した課題提供や授業について、生徒に分かりやすく、興味を持たせるとともに、考えさせる授業を行うために、同じ教科でお互いの授業を見合うなど同僚性を意識し、実践の中で研鑽していく。</p> <p>・種別休業になった場合の学習の確保について、子どもと保護者が納得するものを提供できるようにしたい。</p> <p>・基礎・基本的定着が不十分な生徒や学習に対する関心のある生徒への支援を支援コーディネーターを中心として組織的に検討し、取り出し授業等の具体策を図る。</p> <p>・朝学活を有効に使い、読書の習慣を醸成し、さらに落ち着いた状態から1時間目の授業に入ること、学習に対する意欲や授業規律の見直しにつなげたい。</p> <p>・ユニバーサルデザインの視点とインクルーシブ教育の具現について、研修を行い、実践していく。</p> <p>・若く経験の浅い教員に対し、学年の教員が実践の中で(OJTを有効に活用し)Q、助言する体制をつくる。</p> <p>・説明責任のつく評価資料の整理を行うとともに、日頃から互いの授業を見合い、授業力の向上につながる同僚性も意識することが大切である。</p>	
2	<p>心の教育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習の推進 ・特別支援教育の推進 	<p>○福祉教育や環境教育など、体験的な活動を通して、学校や学級内の温かい人間関係づくりを進めるとともに、生徒の思いやりや心を大切にすることを育む。</p> <p>・命の大切さを知る体験的な学習を実施する。</p> <p>・省エネ環境学習(講演会、校外学習、ワークショップ、環境フォーラムを通じた環境学習等)を推進する。</p> <p>・福祉体験学習(ボランティア活動への参加、講演会、体験講座、一人ひとりのボランティア等)を推進する。</p> <p>・キャリア在り方生き方教育の一環としての職場体験学習を実施する。</p> <p>・生徒会活動の充実(各種委員会活動、生徒集会、壮行会、生徒総会等)を図る。</p> <p>・学校生活アンケートや教育相談を実施し、いじめや暴力を許さない学校環境を醸成させる。</p> <p>・誰もが安心して自分の意見を言える生活・学習環境と雰囲気を作る。</p> <p>・特別支援教育についての研修を行い、教職員の支援教育に対する意識を高める。</p>	<p>○コロナ禍で赤ちゃんとふれあい体験の実施は断念したが、遠征やその他の授業などで、機会を毎に自他の命の大切さについて生徒が考える機会を設けた。3年生では保健師・助産師をお招きしての命の授業と外部機関の方をお招きしての薬物乱用防止講演会を実施することができた。</p> <p>○職場体験は実施できなかったが、調べ学習を通して働くことの意義や苦勞、喜びを知ることができた。</p> <p>○エネ&環境教育について、今年は「炭酸素」を切り口にオリエンテーション講演をはじめ、多くの企業をお招きし、体験学習を行っていた中で生徒が自分ごととして地球環境について考えることができた。それをまとめ、1-3年の縦割りグループで発表する活動もできた。その活動を通じて生徒の意見発表力を養い、誰か人間関係づくりも進めることができた。</p> <p>○生徒集会や大会・コンクール前のTV放送による壮行会において、生徒が自主的に会の計画・運営を行える環境を整えることで、リーダーの育成と生徒同士の信頼関係を築くことができた。</p> <p>○アンケートを基に担任だけでなく、他の相談できる教職員との教育相談を実施することで、生徒の気持ちに寄り添った生徒理解ができた。生徒の現在の様子と求める生徒像について再確認を行い、生徒が自信を持って安心して自分の意見を言える生活・学習環境について、教職員の意識を高めることができた。</p> <p>○特別支援コーディネーターやSCによる研修を行うとともに、本校の実態を全員が共有し、教育的ニーズのある生徒の支援について学ぶことができた。</p>	<p>・各種行事の意義を再確認し、伸ばしていきたい能力を明確にしていこう。</p> <p>・生徒に自信と達成感ももてる活動として、生徒を主体とした取り組みを多くし、全職員が助言を与えらるよう活動にする。</p> <p>・今年度も実施できなかったが、エネ&環境フォーラムなどのボランティア活動には、早期に広く募集をかけ、福祉委員以外の生徒にも、参加できるような環境を作るようにしたい。</p> <p>・学校外において生徒が自ら継続的にボランティア活動に参加できるように支援を行っていく。</p> <p>・教職員が常に生徒に気づかせ、考えさせ、行動させるイメージを大切に教育活動における機会を生かすようにする。</p> <p>・週一度行われる主任会を継続して行い、生徒の状態を把握し、情報を共有しながら生徒に寄り添った指導を行っていく。</p> <p>・ケース会議について、学年主任とコーディネーター、担任が密に連携を図り、時期を逸さない会議の設定を行う。</p> <p>・教職員全員がキャリア在り方生き方教育についての理解を深め、取り組めるように、3年間を見通した計画の見直しを図る。</p>
3	<p>健康・安全教育の推進</p>	<p>○勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・分掌等において、教職員の負担が偏らないように配置、役割等を考える。 ・効率的な働き方を促し、休めるときは休むことを推奨する。 ・教育課程の見直しと行事の精選を行い、一人一人の負担の軽減を図る。 ・限られた時間で最大限の教育効果を発揮するために、心身ともに健全な状態を保つよう努める。 	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、うがいや手指消毒の励行、自分の体調管理をしっかりと行い、感染しない、させないという意識付けを行うことで、生徒の安全は守られた。しかし、その新しい生活習慣に慣れが生じ、手指消毒やマスクを外した時のマナーの徹底ができていない部分も出てきた。</p> <p>○第6波では、感染力が思った以上に強く、家庭内での感染が拡がり、2クラスが学級閉鎖となったが、クロームブックを活用することで自宅待機中の生徒の学習については大きな問題は生じなかった。</p> <p>○予定通りの防災・避難訓練の実践はできなかったが、担当教職員の講話を通して、生徒が自ら危険を避け、自分の命を守る術を学ぶことができた。</p>	<p>・感染症対策、新しい生活習慣に少し慣れてきた感がある。</p> <p>・引き続き、教職員の防災研修を行い、震災や火事時の対応だけでなく、不審者対応や設備安全についても教職員の意識を高める。</p> <p>・清掃活動についても引き続き、生徒が自主的に取り組むよう、保健委員会、生徒指導部との連携を図りながら指導を継続していく。</p>
4	<p>働き方改革に関する取り組みの徹底について</p>	<p>○勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・分掌等において、教職員の負担が偏らないように配置、役割等を考える。 ・効率的な働き方を促し、休めるときは休むことを推奨する。 ・教育課程の見直しと行事の精選を行い、一人一人の負担の軽減を図る。 ・限られた時間で最大限の教育効果を発揮するために、心身ともに健全な状態を保つよう努める。 	<p>●機会ある毎に勤務時間を意識する(長時間学校に残っている仕事は、ない、休めるときは休むなど)より提示した。その結果、時間外勤務時間の総数は減少した。しかし、未だ特定の教職員が長時間勤務を行っており、全体的な改善には、至っていない。</p>	<p>・学年や分掌において、組織的に仕事に取り組む体制を整え、一人一人の負担を軽減することで、時間外勤務時間を減らすよう努める。</p> <p>・学校閉庁日を利用した休暇等の取得を推奨を継続する。</p>
5	<p>開かれた学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域と一体化した教育活動 ・積極的な情報発信 ・小・中・高連携教育の推進 	<p>○家庭・地域と一体化した教育活動を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事(地域バトロール、盆踊り、祭礼バトロール等)に積極的に参加する。 ・地域行事への生徒の参加を促す。 ・地域教育会議主催の行事に積極的に参加する。 ・学校より、各種通信やホームページを通じて学校情報を積極的に発信する ・小・中・高連携教育を推進する 	<p>○学校より、学年次より定期的に発行することができ、内容も充実している。保護者・地域の方からも毎回楽しみにしているという声を聞くことができた。</p> <p>○校長室だより「梨の丘」を2月号のペーン発行し、生徒の様子や校長の考えなどを発信できた。保護者からも好評をいただいた。</p> <p>○校門横に掲示板を設置、立ち寄って覗いていただけるよう飾り付けを工夫し、地域の方への情報発信を進めることができた。</p> <p>○ホームページへの掲載内容や更新の早さが保護者や地域の方から好評であった。</p> <p>○避難所運営会議は実施できたが、地域合同防災訓練は縮小(学校内巡回、災害備蓄倉庫点検等)して行った。</p> <p>○小学校との相互授業参観は感染症対策で人数での教職員が行き来できず、中止し、6年生の体験入学は内容を縮小して実施できた。高校との連携についても同僚だったがオンラインによるICT研修を実施することができ、中高のICT利用について情報交換ができた。</p>	<p>・引き続き学校だより、学年だより、校長室だよりを定期的に発行する。</p> <p>・学校ホームページの機会を捉えたい更新と内容の工夫を図る。</p> <p>・避難所運営会議の内容を教職員が共有し、合同防災訓練への協力を促す。</p> <p>・今年度もコロナ禍で予定がずれてしまったが、次年度は、改めて管理職及び担当職員が密に連絡を取り合い、各校の行事を考えたバリエーションを良く、さらに、小・中における育てたい生徒像をお互いに理解しあうことで異校種交流を計画していく。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向け
<p>・あいさつがしつかりしている。</p> <p>・換気との関係による冬場の防寒対策について(ウインドブレーカー着用可など)良いアイデアだ。</p> <p>・学年ごとの校舎について、この状況なのでよく洗って、清潔なのは、良い。</p> <p>・生徒は、手洗いや手指消毒をしっかりと行っていると思ふ。今後も続けていただきたい。</p> <p>・着ら着いた、地域の行事にぜひ、参加してもらいたい。</p> <p>・感染症対策について、先生方に負担はなかったか心配である。</p> <p>・コロナ禍で行事が縮小される中、生徒や先生方は工夫して行事に意欲的、積極的に取り組んでいる。</p> <p>・延期や内容変更があったが、修学旅行や体育祭、部活の大会などが行われたのは、生徒にとって大変良かったと思う。</p>	<p>・コロナ禍で多くの行事、教育活動が延期、縮小、中止を余儀なくされた中で、生徒は今だからこそ、自分たちができることに「気づき、考え、話し合い、それを基に工夫した取り組み」を行うことができた。育てたい生徒像として、「自ら考え、育てたい意見や思いを伝えることができる生徒」を掲げ、全教職員がそのことを意識して教育活動に臨むことができた。授業においても感染症対策を講じ、対面での発話を気を付けながら、考え、話し、伝えたい過程を繰り返すことで、自信を持って自分の意見を述べていくことができる生徒が増えた。</p> <p>・教育活動の再開に「自ら気づき、考え、正しい判断で行動する」生徒の育成を重点テーマとし、各教科において改めてそのテーマに基づいた目標を立て、教育活動に臨む体制をつくる。また、心の教育、特別支援教育、キャリア在り方生き方教育に加え、SDGsに關わる学習を計画的に行い、次年度「総合的な学習の時間」における環境教育について、身近な地域から生徒一人一人に届くまでの環境についてを(MY SDGs)(自分ごと)として捉え、その学習を進める中で生徒が自分の考えをまとめ、発信する力を育てたい。また、本年度「総合的な学習の時間」の研究推進を受ける予定なので、全教科・全職員で取り組んでいく。さらに、今年度と同様に「研究力」共感力」の大切さを教職員及び生徒に意識させ、全体が一つになって課題に取り組める学校を目指す。</p>